

灰の水曜日

福音朗読 マタイ 6・1-6、16-18

2023.2.22

カトリック高円寺教会 10:00 ミサ

主任司祭 高木健次神父

皆さんにバレているかどうか分からないんですけど、最近というか、ここ数ヶ月かな、長いですね、わたくしがあんまりやる気がなかったんです。やる気がないと言うと変ですけど、そのやる気のレベルがずっと落ちている。例えば、司祭館に新しく入れていただいて、司祭の執務室のお引越しの荷物が、司祭館を通られる方は気が付くと思うんですけど、ずうっと積んであるままになっています。(笑)ほんとはそこでもお客さんを迎えられるようになってるんですけど、毎週来ても変わらないなあって思うような、とかね。

あとは、ちゃんとしてる時にはお説教の原稿が、原稿そのものを読むかどうかは別にして、出来てるんです。だけど原稿がなかなかまとまらなくて、原稿がなくて話したときに、「今日のお話しはピンとききました」とか言ってくださる。だから何が良いか分からないんですけど。原稿がちゃんとできて整っているときのほうが、もしかしたらずうっと流れて行っちゃうっていうことはあるかもしれません。でも長い目で見ると、ちゃんと準備してっていうのは、その瞬間瞬間のことではなくて、聖書の講座にしてもですけど、蓄積になって、聖書の理解であるとか司牧的な振る舞い方ということになってくるんだけど、その歩みが止まっている。休みながらでいいなと自分では思ってるんですけど、休むって休暇を取るって意味ではなくて、停滞するときもあるしやるときもあるんだからっていうふうにある意味では自分を慰めてる面もありますけど、そういうのじゃなくて、やっぱりとどまってるなっていう感じが長くて、そうするとお祈りも、言葉だけというか、やっていてもやっていないような状態と言いますか。

そんな中で、何にも考えないで十字架の前で手を合わせて5分間とか立ってみたら、少し心の中にやる気が戻って来た感じがするんです。その効果が皆さんが実感できるかどうかは別の話なんですけど、「やる気が出たって言ってたけどあんまり変わらないわ、今日の話も」(笑)、みたいなね。やる気と効果は別問題ですが、でも、自分の日々の生活あるいは役割、司祭職などというのは、自分の力で行うのではない。イエス様に出会って、イエス様に触れて、恵みによっていつも絶えず生かされているということを思い出させてもいただいた気がします。

「こうなりますように」とか「回心できますように」、「神様、今自分の心の状態が停滞しています」とか訴えるとか、そういうことはなんにも無くして、ただ神様の前に立ったんですね。そうしたら少し元気を頂けたという感じがしたという体験です。ある人にとってはそれは思い込みに思えるかもしれませんが。でも信仰の目から見たらそれはイエス様の恵みって言うてもいいんじゃないかなって思います。その体験があって、自分の力だけではない、いつも神様の恵みに、イエス様の恵みに生かされているっていうことを思い出せたりすることができるような体験をいただいた気がしてるんです。

皆さんももしかしたらそういう体験がおありかもしれません。

今日から四旬節で回心の時を過ごす。また、そのしるしとして灰を受ける。回心って言うのは、ただ神様に「イエス様のおっしゃった通りにできませんでした、歩めませんでした」ということをお詫びするということだけではなくて、むしろ自分一人でやろうとしてたかもしれない、あるいは今もしてるかもしれないなということを改めて振り返って、どんなことでも、たとえ宗教的な司祭叙階とか結婚の秘跡とか、洗礼式、洗礼の恵みを生きるということだけではなくて、それ以前に日々の生活そのものもイエス様の恵みのうちに成り立っているということをおぼえてたかもしれない。なので、それを思い出させていただいて、また神様から力を頂いて新しい気持ちで日々を過ごしていく、立ち上がる。それが回心の時と言うんじゃないかなと思います。

それが実際には、それぞれの今の心の状態にピッタリ時期が合ってるか合っていないかは人それぞれ。今ほんとはもう神様ととても一致を感じていて、それで四旬節に入って来るって言うときには、もうすでに神と共にいる、回心の恵みを頂いていると言っても良いと思います。でも、今疲れてやる気がでないなあというときに、もしかしたら神様を忘れているかもしれない、そういう時期とこの四旬節がピッタリ重なっている方もいらっしゃるかもしれません。わたしのよう

に。

いずれにしてもいろんな浮き沈み、霊的な状態の浮き沈みは当然来るし、でもその時のために何を思い出したら良いかっていうのを神様が準備してくださっているのだ、というのを典礼を通して意識するというのが、この共に過ごす回心の時である四旬節の意義なのではないかなと思います。

なので、今日改めて、一人ひとりが神と共に歩んでいる、あるいは力を頂いているということをおぼえ起こすと同時に、いろんな形で疲れている、あるいは自分

だけで生きようとして袋小路に陥っているかもしれない人たちのためにもお祈りすることができたら良いなあと思います。

それでは、これから灰の式に移っていきます。

---

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>